

# 病院移転が新人看護師に与える影響を明らかにする

## ー移転後のアンケート調査からー

キーワード：病院移転、新人看護師、不安、ストレス

○平野 藍（健診課）

### I. はじめに

A病院は平成24年5～10月に3回に分けて新病院への移転を行った。病院移転は早々経験することではなく、勤務場所や関連部署・物品の位置、システムの変更などによって看護師に与える不安・ストレスは大きい。中でも平成24年4月に採用された新人看護師は勤務開始から短期間での病院移転となり、通常の新人看護師と比べ業務に対する不安・ストレスが大きいのではないかと予想される。先行研究を検索すると、新人看護師の不安やストレスに関する研究は数多くなされているが、それらの中で病院移転に関連した研究は未だ報告されていない。

よって今回、病院移転に関連した新人看護師の不安・ストレスの実態を明らかにすることによって、採用から短期間で病院移転を経験した新人看護師が、その不安・ストレス軽減のために、特別な介入を必要とするのか明らかにすることができると考えた。

### II. 研究目的

採用から短期間で病院移転を経験した新人看護師が、その不安・ストレスを軽減するために、通常の新人看護師とは違った介入を必要とするのかを明らかにする。

### III. 用語の定義

- ・新人看護師：卒後一年目で、他院での臨床経験を持たない看護師
- ・不安：病院移転に関連して抱く、看護師の内面に去来した負の感情
- ・ストレス：病院移転に関連し、看護師が感じる身体的・精神的負担

### IV. 研究方法

1. 研究デザイン：文献研究、アンケート調査研究

2. 研究対象

1) 文献研究

医学中央雑誌 web 版 Ver. 5 を用いて看護の原著論文を対象に、キーワードを新人看護師、不安またはストレスとして検索した結果、

237 件の論文が抽出された。その中から、発表年を 2007～2012 年に絞り、更に新人看護師の不安やストレスの内容について明確に記述されている論文 10 件を対象とした。

2) アンケート調査研究方法

平成 24 年 5～10 月に新築移転した病床数約 510 床の総合病院に平成 24 年 4 月より採用された新人看護師 67 名のうち、研究の協力・参加に同意の得られた 57 名を対象とし、新病院移転に伴う不安・ストレスについてのアンケート調査を実施した。

アンケートは自由記述式とし、「病院移転」「環境の変化」「看護業務の変化」「人間関係の変化」の 4 点について感じた不安・ストレスを記入するほか、それらへの対処法、移動を複数回経験した際の感じた不安・ストレスの変化について記入することとした。

3. 分析方法

対象文献およびアンケート調査結果から、新人看護師の不安、ストレスに関する記述をすべて抽出し、意味の類似性に着目して分類、カテゴリー化した。

V. 倫理的配慮

アンケート調査研究対象者に、研究への協力は対象者の自由意思にて決定され、協力をしない場合であっても不利益は受けないこと、プライバシーに配慮し、結果が公表される場合であっても対象者の秘密は保全されること、得られた情報は研究以外の目的で使用しないこと、の 3 点について書面にて説明し、同意を得た。また看護倫理委員会の審査を受け、承認の判定を得た。

VI. 結果

1. 文献研究

新人看護師の不安やストレスの内容として、259 のデータが抽出され、それらは 22 のサブカテゴリー、7 のカテゴリーに分類できた。（表 1 参照）

2. アンケート調査研究

1) 対象概要



A 病院の移転は病棟ごとに時期をずらして行われ、それぞれの病棟で移転完了までの移動回数が 1~3 回とばらつきがあった。具体的な移動時期は、5 月、6 月、10 月の 3 回であった。また移動を複数回経験した病棟では一時的な他病棟との合併がある場合が多く、スタッフメンバーや勤務状況が変則的になっていた。1 回の移動で新病棟への移転が完了した病棟でも、移転が完了していない科の患者を一時的に受け入れており、他科患者が増加傾向にあった。

当研究の協力・参加に同意の得られた新人看護師は 67 名のうち 57 名であり、アンケートの回収率は 85% であった。そのうち移動を 1 回経験したものは 39 名 (12 病棟) で全体の 68%、複数回経験したものは 18 名 (4 病棟) で全体の 32% であった。

## 2) アンケート調査結果

病院移転に伴う新人看護師の不安やストレスの内容として、213 のデータが抽出され、それらは 19 のサブカテゴリー、10 のカテゴリーに分類できた。(表 2 参照)

以下【 】はカテゴリー名を示す。

## VII. 考察

アンケート調査と文献研究の結果の比較から、採用から短期間で病院移転を経験した新人看護師は、【「病院移転」そのもの】【移転準備による身体的・精神的負担の増加】【労働環境の変化】【「先輩に聞いても分からない」という環境】【業務内容の変化】の点において、通常の新入看護師とは違った不安・ストレスを抱えていた。

【「病院移転」そのもの】のカテゴリーでは、「病院移転」という未知の体験に対する漠然とした不安が語られており、「どんなふうになるのか想像がつかない」といった予測できないことに対する不安を示していた。このような不安を抱くことは新人看護師に限ったことではないと考えられるが、移転前の環境に慣れていない新人看護師にとって、さらなる変化が加わることがより大きな不安の要因となったのだと考えられる。

【移転準備による身体的・精神的負担の増加】のカテゴリーでは、病院移転の準備のために時間外勤務が増加したことや、病棟のことをよく把握できていない中で移転準備を進めていかなければならなかったストレスが語られていた。しかしこのカテゴリーは病棟によってばらつきがあり、不安・ストレスの内容として語られない病棟も多かった。こ

のことは、病院移転に際して新人看護師に役割を与えた病棟と与えなかった病棟の差であると考えられる。病院移転に際して役割が与えられ、なおかつ移動回数が多かった病棟の新人看護師ほど、【移転準備による身体的・精神的負担の増加】に関する不安・ストレスを述べる傾向にあった。これにより、病院移転に伴い新人看護師が抱く不安・ストレスは、病院移転に際して役割を与える、移動回数が増えるなどの直接的な負担と比例して増加することが示唆された。

また今回のアンケート調査の中で、最も多くのデータが抽出されたのが【労働環境の変化】のカテゴリーであった。このカテゴリーでは、物品の位置が変更となり覚えるのに苦労することや、病棟が広くなることによる負担の増加などが語られていた。文献研究では【力量不足】のカテゴリーにて、業務を覚えていくことに対する不安・ストレスが語られており、一般に新人看護師はこれらを感じていることが示されている。その上で、病院移転を経験した新人看護師は更なる変化に対応しなければならず、通常の新入看護師と比べ、大きな不安・ストレスを抱える結果となっていたと考えられる。

またこれに関連し、【「先輩に聞いても分からない」という環境】のカテゴリーでは、「先輩に聞けば何でも分かる環境ではなくなったことが不安」といったデータが抽出された。通常の新入看護師は、各病院の新人教育プランに基づいて、所属部署の物品配置や物品の使用方法など先輩看護師からオリエンテーションを受けながら把握していく。しかし移転先の病院ではスタッフは皆同じスタートラインに立っているため、新人看護師にオリエンテーションをできない現状がある。まだ業務に慣れない新人看護師にとって、先輩看護師に頼ることができない状況が、不安・ストレスの要因となったと考えられる。

【業務内容の変化】のカテゴリーでは、移動の際に他科と合併したことや、一時的に他科患者の受け入れが増加したことによって、配属科以外の疾患の患者を受け持つことに対する不安・ストレスが語られていた。まだ看護技術・判断に自信を持つことのできない新人看護師にとって、未知の疾患や処置を行うことでの不安・ストレスは大きい。このことは通常の新入看護師にも共通することではあるが、病院移転によって他科の患者と接する機会が増加したことにより、より顕著に



示されたのではないかと考えられる。

さらに今回のアンケート調査において特徴的であったのは、【人間関係に対する困難感】のカテゴリーにおいて、「他科のスタッフとの協働」がデータとして多く抽出されたことである。移動を複数回経験し、他科との合併があった病棟ほど、データ数が多い傾向にあった。文献研究でも【人間関係に対する困難感】は多くのデータが抽出されており、一般に新人看護師は職場の人間関係に不安・ストレスを感じやすいことが示唆されている。その上で他科との合併などによって関わる人間が増えることにより、病院移転を経験した新人看護師は【人間関係に対する困難感】に関する不安・ストレスを感じやすいのだと考えられる。

これに関連し、移動を複数回経験した際の感じる不安・ストレスの変化については、「他科と合併する際が最も不安・ストレスを感じた」という意見が多く見られた。よってこの結果からも、病院移転を経験した新人看護師は【人間関係に対する困難感】に関して、大きな不安・ストレスを感じていたということが示唆された。

さらに、これらの不安・ストレスへの対処法として「先輩・同期に相談した」という意見が最も多かった。このことから、病院移転を経験した新人看護師は、【人間関係に対する困難感】に関して大きな不安・ストレスを感じる一方で、それらの不安・ストレスへの対処法として職場の人間関係を利用しているということが明らかとなった。よって、新人看護師が病院移転の際に受ける不安・ストレスを軽減するためには、職場内の良好な人間関係が必要であることが示唆された。

#### VIII. 結論

採用から短期間で病院移転を経験した新人看護師は

- ・病院移転という未知の体験
- ・移転準備による身体的・精神的負担の増加
- ・労働環境の変化
- ・「先輩に聞いても分からない」という環境
- ・他科の患者を受け持つこと
- ・他科のスタッフとの協働

の6点において、通常の新人看護師より不安・ストレスを受けており、これらを軽減するために、何らかの介入を必要とすることが示された。

またこれらの不安・ストレスに対処するためには、職場内の良好な人間関係が必要であ

ることが示された。

#### IX. 終わりに

今回の研究は対象となった病院が一つであるため、得られた結論を一般化することは難しい。今後同様の研究が行われる際の、一つの指標としての意味を持つと考える。

#### 参考文献

- 1) 佐居由美・松谷美和子ほか：新卒看護師のリアリティショックの構造と教育プログラムのあり方，聖路加看護学会誌，11 巻(1)，P100～108，2007
- 2) 田代清美・西辻美佳子ほか：新人看護師のストレスの実態とコーピングへの支援の試み，日本病院会雑誌 56 巻(2)，P192～196，2009
- 3) 森良信・三原太ほか：新規採用看護師のメンタルヘルスの経時的変化についての検討，医療 65 巻(4)，P204～211，2011
- 4) 長谷川真美・田村佳士枝ほか：新人看護師の早期離職防止への職場サポート 就職後3ヶ月経過した新人看護師の離職・就業継続意識から，日本看護学会論文集 看護管理 37 号，P424～426，2007
- 5) 久保江里・前田ひとみほか：新卒看護師の仕事に対する予想とのギャップと対処の実態 就職3ヶ月後と6ヶ月後の縦断的調査から，南九州看護研究誌 5 巻(1)，P45～52，2007
- 6) 井出恭代・太田由起美ほか：新卒看護師の半年間の思い インタビューを通して，長野県看護研究学会論文集 30 回，P130～132，2010
- 7) 大久保仁司・平林志津保ほか：新卒看護師が入職後3ヶ月までに感じるストレスと望まれる支援，奈良県立医科大学医学部看護学科紀要 4 巻，P26～33，2008
- 8) 濱咲真理子・藤江孝美：新人看護師の就職後3ヶ月の心理状態と支援方法，中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会誌 5 巻，P137～140，2009
- 9) 森谷真澄美・松田幸恵ほか：新卒看護師のリアリティショックと乗りこえた，日本看護学会論文集：看護管理 40 号，P300～302，2010
- 10) 山田美幸・前田ひとみほか：新卒看護師の離職防止に向けた支援の検討 就職3ヶ月の悩みと6ヶ月の困ったことの分析，南九州看護研究誌 6 巻(1)，P47～54，2008



表1) 文献研究結果

カテゴリー	サブカテゴリー	数	主なデータ
人間関係に対する困難感	職場の人間関係不良	38	職場の人間関係の悪さ
	職場の雰囲気になじめない	9	仕事のミス責められる雰囲気
	適切なコミュニケーションがとれない	9	患者に適切に接することができない
業務の過負荷	仕事量が多い	26	想像以上に業務が忙しい
	責任が重い	7	自分の看護行為が何人もの患者に迷惑をかけると思うと責任を感じる
	休息が取れない	21	休日は気分転換が図られないまま、勉強をして過ごす
	安全な業務の遂行に対する不安	7	事故やミスを起こさないか不安
	ヒヤリハット・インシデントを起こした	3	ヒヤリハットやインシデントを起こした
力量不足	力量不足だと感じる	61	技術や知識が未熟
	患者や他のスタッフに迷惑をかける	6	患者や先輩看護師に迷惑をかける
	業務を覚えることが大変	4	仕事ができない・覚えられない
	夜勤に対する不安	5	夜勤ではチームの受け持ちは自分だけなので責任の重さを感じた
	自己の成長に対する不安	6	友人に遅れをとっている
理想と現実のギャップ	理想と現実のギャップ	17	自分の看護観に基づいた看護ができないジレンマ
	患者の病状悪化・看取り	5	患者の死への対応
社会人になったことによる環境の変化	勤務形態への適応が難しい	9	生活リズムが不規則で、初めはつらくてご飯も食べたり食べなかったりした
	社会人になったこと	1	社会人になり一人暮らしを始めるなど環境の変化
	心身の不調	9	体調が優れない
指導・教育方法	指導方法・教育方法	31	先輩ナースも業務に追われ、指導を受けられる環境にない
勤務状況に対する不満	満足できない給与	3	時間外勤務手当がつかない
	休みが好みにとれない	2	勤務の希望が出せない
	希望外の勤務先	3	希望通りの勤務先でなかった

表2) アンケート調査結果

カテゴリー	サブカテゴリー	数	主なデータ
人間関係に対する困難感	人間関係に関すること	44	なかなか他科の先輩と話したり、頼ることができなかった。
業務の過負荷	仕事量が多い	4	北病棟ができるまでは他科の自立度が低い患者が入院していたので、ケア度が高くとても忙しかった。
	責任が重い	1	責任が重いこと
力量不足	力量不足だと感じる	19	技術や知識が未熟
	患者や他のスタッフに迷惑をかける	6	患者や先輩看護師に迷惑をかける
	自己の成長に対する不安	3	友人に遅れをとっている
社会人になったことによる環境の変化	社会人になったことによる環境の変化	2	学生から社会人という環境の変化が想像していたものと全然違うことで、自分の気づかないうちに精神的・身体的両方のストレスを感じていた。
指導・教育方法	指導・教育方法	4	業務の忙しさによって先輩Ns. からきちんと指導を受けられずにとっても不安が大きく、ストレスになっていた。
「病院移転」そのもの	「病院移転」そのものに対する不安・ストレス	7	初めての経験で、勤務期間も数ヶ月のときに引越しがあつたので、どんなふうになるか想像がつかなかった。
移転準備による身体的・精神的負担の増加	移転準備による身体的負担の増加	12	慣れない業務に加え、引越し準備を行うのは体力的にしんどかった。
	準備に際し、知識がないことによる不安	3	元々の物品の場所や定数を知らなかったため、引越し準備のため場所を割り当てられていたが、何をどのようにすれば良いかわからず不安だった。
	先輩に移転準備を任せることに対する申し訳なさ	2	引越し準備の役割分担があつたが、まだ先輩にも慣れていなくて仕組みもよく分からず、あまり手伝うことができず先輩が主にしてくれていたので申し訳なかった。
労働環境の変化	労働環境の変化	28	今まで働いていた環境に慣れ始めた頃での移転ということでやっていけるかどうか不安があつた。
	物品・関連部署の位置が分からない	37	旧病棟で覚えたばかりの物品の位置がすべて配置換えとなつたので、新しい場所を覚えるまでが時間がかかり手間取った。
	物品や検査室の位置を覚えなおすことによるストレス	11	5月まで覚えた物品位置などを新しく覚えなおさないといけない。
	物品・病棟の使い方が分からない	5	一つ一つの物品の使い方（部屋のスイッチなど）が分かりにくい。
業務内容の変化	他科の患者を受け持つこと	39	自分の科のこともまだきちんと見ることができない上に、他科が増え疾患が分からないことも多く不安だった。
	患者移送を手伝うこと	4	他病棟引越しの患者移送の際、移送するにあたっての注意点として目で見て分かる情報しかなく不安だった。
「先輩に聞いても分からない」という環境	「先輩に聞いても分からない」という環境	6	引越しによって先輩方も不安や戸惑いがあったと思うし、「先輩に聞けば何でも分かる」環境ではなくなったことが不安だった。